

最新ニュース 羽曳野市循環バスのご案内



府立大学前（東側・西側）バス停移動のお知らせ

府立大学前（東側・西側）バス停は
8月1日より
名称をはびきの医療センター前に変更し
はびきの医療センター前と城山病院前に移動します。
《お間違いないようご注意ください。》

9月1日より現在の黄色の位置から
黄色の位置に移動します

羽曳野市役所管財用地課車両係 (電話) 072-947-3920

8月1日（木）より、羽曳野市の公共施設循環福祉バスの府立大学前（東側・西側）バス停を南へ約200m移動しました。これに伴い、バス停の名称も「府立大学前」から「はびきの医療センター前」に変更となりました。詳しくは羽曳野市ホームページをご覧ください。

羽曳野市さまとの包括連携協定に基づき、今後も官民共同により患者さんのサービス向上に取り組んでまいります。

最新ニュース 9月21日開催「羽曳野からだ塾」参加募集のお知らせ

府民の皆さんの健康増進を目的に、9月21日（土）当センターにおいて、府民公開講座「羽曳野からだ塾」を開催します。テーマは「あなたの腎臓を守る！後悔しないための慢性腎臓病対策」と題し、病状が悪化しないと自覚症状が現れにくい「慢性腎臓病」について、お話しいたします。ぜひご参加ください。



テーマ 「あなたの腎臓を守る！
後悔しないための慢性腎臓病対策」

日時 2024年9月21日（土）14:00～16:00

会場 大阪はびきの医療センター3階 講堂

定員 先着150名（定員になり次第、締め切ります）

費用 無料

申し込みはこちらから

■ 講座の内容

- ①「慢性腎臓病と、日常生活での心がけ」
腎臓内科 主任部長 飯尾 麗
- ②「毎日の積み重ねから！腎臓に優しい食事」
栄養管理室 管理栄養士 花井 美夢
- ③「くすりはリスク!? 慢性腎臓病で注意すべきお薬」
薬局 腎臓病薬物療法認定薬剤師 的場 美香

■ 申し込み方法

9月20日（金）までに、電話または上記のQRコードより「参加申し込みフォーム」にアクセスのうえ、お申し込みください。

* 手話通訳が必要な方は、9月6日（金）までにお申し込みのうえ、その旨お申し出ください。

■ 申し込み・問い合わせ先

大阪はびきの医療センター 総務グループ
電話（代）072-957-2121（平日9:30～17:00）

はびきの医療コラム①

川崎病を知っていますか？

川崎病という病気を聞いたことはありますか。川崎病は主に乳幼児がかかる病気で、突然の高熱、眼球の充血、手足が赤く硬く腫れる、さまざまな発赤疹（BCG痕が強く反応することもあります）、口唇、舌、口腔内の発赤、痛みを伴う頸部のリンパ節の腫れなどの症状を呈します。原因は必ずしも明らかではありませんが、全身の比較的細い動脈に炎症（血管炎といえます）が生じることが知られています。

その結果、一部の患者さんでは心臓を栄養する冠動脈と言われる血管が部分的に拡張したりこぶ状となったりし、血液の流れによどみをきたします。これにより狭心症で見られるような血液の流れにくさが長期にわたって生じ、最悪の場合、突然死をきたすこともあります。

治療は、この血管炎をできるだけ早く治めることを目的に、免疫グロブリンや解熱鎮痛剤であるアスピリンを用います。また重症と考えられる場合には、全身性ステロイドの薬の投薬も併用されます。早期に強力な治療を行うのは、冠動脈の拡張やこぶの形成を起こさないようにするためです。当初は7～10日程度の入院で治療しますが、後も最低数か月はアスピリンの服用を継続し、エコー検査で心臓や冠動脈に問題がないかを評価します。



川崎病に罹患する患者さんは新型コロナウイルス流行時には減少しましたが、最近また増えてきています。

川崎病は早期診断が重要です。前述したような症状が気になれば、遠慮なくかかりつけ医、あるいは当科にご相談ください。

小児科 主任部長 亀田 誠

はびきの医療コラム②

睡眠時無呼吸症候群について

眠っている時にご自身やパートナーのいびきがひどかったり、十分に睡眠時間をとっているにもかかわらず、昼間の眠気が強かったりするという症状の方はおられません。もしかすると睡眠時無呼吸症候群という病気のせいかもしれません。これはその名の通り、眠っている時に呼吸が止まったり浅くなったりして血中の酸素濃度が低下する状態が繰り返される病気です。原因としてはさまざまなものがありますが、最も多いのが肥満による上気道の閉塞です。

昼間の眠気で交通事故のリスクを高めてしまい、さらには高血圧や虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）、脳卒中（脳梗塞、脳出血）のリスクを高めることが証明されています。それほど珍しい疾患ではなく、軽症で無症状の方を含めると我が国では300万人以上が罹患しているとされ、特に肥満傾向の40～60歳の男性に多く、女性では閉経後に増加するという報告もあります。

診断のためには自宅で行う簡易的なモニター検査や、入院して精密に検査する睡眠ポリグラフィーがあります。もし治療が必要と診断された場合には、減量をするなど生活習慣の改善を図ることはもちろんですが、それ以外にはマウスピース療法や側臥位療法、そして最もポピュラーな治療法としてCPAP療法（シーパップ、経鼻的持続陽圧呼吸療法）があります。

「いかに健康で長生きするか」を実践するためにも、症状がある方は一度検査を受けてみることをお勧めします。

呼吸器内科 主任部長 森下 裕



ホームページ



はびきのトピックス ①

「患者情報室 そら」のご案内

当センターの6階では、入院中や外来待ちの患者さん向けに「患者情報室 そら」を開放しております。並んでいる本はすべてセンター内で働く職員から寄附されたもので、何年も大事に使われています。医学書も揃えており、必要な情報を収集できるスペースです。

天然木で作られた椅子や机を配置し、読書を楽しめる空間となっておりますので、ぜひご利用ください。



はびきのトピックス ④

日本環境感染学会総会で発表を行いました

2024年7月25日（木）から27日（土）にかけて、国立京都国際会館において第39回日本環境感染学会総会・学術集会が開催されました。

感染対策室の橋本感染管理認定看護師が「感染対策漫画による感染対策の意識改革および行動変容の効果の調査」と題して発表を行いました。

当センターでは、安心・安全な環境作りのためにさまざまな手法を用いて、スタッフの感染対策の意識向上に取り組んでいます。



はびきのトピックス ②

月刊「新医療」に当センター新病院の記事が掲載されました

医療情報システムの最新事情をキャッチする月刊「新医療」において、医療建築の視点から、当センター新病院の特長である「ワンフロア外来」「ワンフロア4看護単位の病棟構成」「パンデミック対策を施した病棟」などについて、ご紹介いただきました。

ご興味のある方は、ぜひご一読ください。



雑誌名 月刊「新医療」2024 September No. 597
発行元 株式会社エム・イー振興協会
スペース カラー4ページ (p.135~138)
発行日 2024年9月1日

はびきのトピックス ⑤

栄養士のための大阪食物アレルギー研究会が開催されました

8月17日（土）に栄養士のための大阪食物アレルギー研究会（OFAD）が開催されました。当センターは本会の立ち上げから深く関わっております。今回は特別講演に昭和大学医学部小児科学講座教授の今井孝成先生にお越しいただきました。また、当センター栄養管理室の中村管理栄養士も「除去食において潜在的に不足する栄養素」と題して講演を行いました。

当日は132名の参加があり、会場は熱気に包まれてあっという間に2時間半のプログラムが終了となりました。

OFADについては、年2回の自主研修会と夏季研修会を開催しております。ご案内については、公益財団法人日本アレルギー協会関西支部のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



はびきのトピックス ⑥

日本小児臨床アレルギー学会学術大会が開催されました

2024年7月13日（土）から14日（日）にかけて、大阪梅田スカイビルにおいて第40回日本小児臨床アレルギー学会学術大会が開催されました。学会シンポジスト、ハンズオン講師、座長および一般演題の演者として、当センターから小児アレルギーに関係する多くの看護師や小児科医師が出席しました。耳鼻咽喉科医や薬剤師、栄養士の参加もありました。

さらに、小児アレルギーエデュケーターの新規資格取得者1名（当センター看護師）の表彰式も行われました。



はびきのトピックス ③

1980年代の当センターの写真が寄贈されました

芦屋市に在住されている個人の方より、大阪府都市整備部経由で過去に撮影された当センターの写真が寄贈されました。

左側に管理診療棟が見えることから、当時の研究棟を写したものと思われます。写真の裏面には「1988年4月4日」に撮影されたことが記されており、当センターの面影を知ることができる貴重な資料となりました。



ホームページ

令和6年9月 第263号
編集・発行 大阪はびきの医療センター

